

## 原子力安全のための耐津波工学に関するシンポジウム（案）

日時：平成 26 年 3 月 20 日（木） 9：00－18：00

場所：建築会館ホール（150 人収容）

参加費：3000 円（資料代：主催共催学会会員）、4000 円（資料代：非会員）←要検討

開催主旨：日本地震工学会では、「原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会」（2012 年 9 月～2014 年 8 月／委員長：亀田弘行）を発足させ活動を行ってきた。同委員会は、原子力安全のための耐津波工学の体系化を目的としており、地震工学・津波工学・原子力安全工学の専門家が密接に連携する体制をとっている。本シンポジウムは、同委員会の 1.5 年間の活動報告を行うと共に、パネル討議において、産官学（事業者側、規制側、大学）から、安全から設備設計、防災に至る幅広い意見の収集と情報交換の場とし、特に、原子力安全に対する学術の役割・責任について検証する機会としたい。

主催：日本地震工学会、共催：日本原子力学会、土木学会

企画担当：日本地震工学会 原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会

### シンポジウムプログラム

1. 開催挨拶(9:00-9:15)―日本地震工学会、日本原子力学会、土木学会【座長：宮野】
2. 調査委員会の設置主旨と活動概要(9:15-9:35)―亀田
3. 耐津波工学の体系化に向けた活動の中間報告(9:35-12:05, 5x@30)【座長：中村隆】
  - 1) 地震・津波工学に求められる原子力安全（外的事象、共通原因故障と深層防護の関り）―宮野
  - 2) 既存原子力発電所の地震・津波被害からの教訓（事故シナリオ、要求性能）―成宮
  - 3) リスク論に基づく津波防御の体系（設計（確定論）と評価（リスク論）の連携）―高田
  - 4) 耐津波設計の概念構築（ハザード、フラジリティ）―今村
  - 5) 敷地周辺を含む原子力防災と地域防災の連携―佐藤
4. 津波への原子力安全に関する最新活動報告(13:10-15:30, 7x@20)【座長：高田】
  - 1) 日本原子力学会（津波安全と社会との関連）―諸葛
  - 2) 土木学会―松山
  - 3) 日本電気協会―長澤
  - 4) 事業者（東北電、中電）―飯田、石黒
  - 5) TSO としての活動（IAEA-EBP の活動も含む）―蛭澤
  - 6) 海外原子力発電所における洪水対策の現況―奈良林
5. 「原子力安全に対する学術の役割・責任」に関するパネル討論(15:45-17:30)【コーディネーター：亀田】
  - 1) 事業者―宮田（東電）・・・成宮さんコンタクト
  - 2) 規制側―森田さんに打診中
  - 3) 専門分野（原子力工学、土木工学、津波工学、地震工学）―中村隆、香月、藤間、高田
  - 4) メディア（NHK など）―NHK に候補者依頼中
  - 5) 総合討議
6. 閉会の挨拶―原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会

実施に向けて (案)

実施体制：耐津波工学シンポジウム実施 WG

主査：高田

コアメンバー：香月\*、松山、佐藤

成宮\*、糸井、電力委員

杉野\*、日高、東

(\*は分野ごと責任者)

実施スケジュール

	9	10	11	12	1	2	3	
企画案決定	→							
関係者との交渉		→						
JAEE より告知				→				
資料作成準備				→				
実施							3/20	

パネル討論については、

事業者、規制、多分野からの専門家からの学術(学会)への要望や期待するものについて、各パネリストが、5分ぐらいでPPT2枚以内で意見を紹介し、その後、座長(コーディネーター)の進行に従って、相互意見交換、議論する。

○原稿は3月10日までにファイルで東さんに提出。冊子を作成

○当日使用したファイルをHPで公開する。基本はレズ目